

令和 7 年 度 学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト（わせがく夢育高等学校【飯能本校】）

目指す学校像	本校の教育スローガン〔自由・個性・夢育〕を基幹にし、令和7年度は次のような学校を目指し、本校の特色を明確化していく。 （１）生徒一人ひとり夢、人権及び個性がお互いに十分に尊重され、いつも楽しい雰囲気にあふれる学校。 （２）生徒が卒業までに、自立して生活できるように、人としての基礎基本（各教科の基礎学力・基本的生活習慣・社会的人間性等）を身につける学校。 （３）地域を理解し、地域に貢献し、地域に信頼される学校
--------	--

重 点 目 標	（１）出席率の向上 （２）退学者の減少 （３）資格取得の奨励 （４）進路決定率の向上 （５）部活動の充実 （６）本校（通信制課程）理解の促進 （７）地域交流の促進	達成度	A B C D	ほぼ達成(8割以上) 概ね達成(6割以上) 変化の兆し(4割以上) 不十分(4割未満)	※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。
出席者 学校関係者 3名 事務局(教職員) 6名					

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価（ 3 月 1 7 日 現 在 ）		
番号	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	皆勤者が一昨年度よりも大幅に増加し、日々の生徒対応・保護者対応の成果が現れている。出席率向上に向けては日々の職員会議での報告や生徒支援相談会を通じ、適切な指導の下、数値目標を達成したい。	出席奨励の連携を積極的に行い、生徒面談・保護者面談を充実させる。	皆勤者を16名以上とする	皆勤者は42名であった。	A	皆勤者が一昨年度よりも更に増加し、日々の生徒対応・保護者対応の成果が現れている。全日型生徒の長期欠席も減少傾向にあり、各校舎の生徒対応の成果が出ている。次年度も職員会議での報告や生徒支援相談会を通じ、適切な指導の下、数値目標を達成したい。
		長期欠席を未然に防ぐため、必要に応じて家庭訪問を実施し、生徒の通学意欲を向上させる。	生徒状況調査で全日型生徒の長期欠席を20%未満とする	全日型の長期欠席は25%であった。		
2	近年の生徒数の増加に伴い、様々な事情を抱えた生徒が増加している。その中でも退学者について目標を達成することができた。引き続き学級担任のみならず、チーム学校として、退学者、転出者の減少に取り組んでいき、目標達成を図りたい。	生徒面談・保護者面談を充実し、生徒の学校不適応の行動を見逃さない。	退学者1名以下とする	退学者は3名であった。	D	近年の生徒数の増加に伴い、様々な事情を抱えた生徒が年々増加している。来年度も学級担任のみならず、チーム学校として、退学者、転出者の減少に取り組んでいき、目標達成を図りたい。
		保護者との連携を強化し、常に適切な連絡を家庭と取り合う。	転出者を1名以下とする	転学者は3名であった。		
3	昨年度は合格者の目標は達成できたが、受験者の目標は達成に少し及ばなかった。今年度も各校舎で検定対策授業を盛り込みつつ、検定実施日の振り紙を各教室に用意するなど、受験者、合格者共に増加できるように取り組んでいきたい。	生徒の学習意欲を高める検定の実施。	受検者数延べ114名	受検者数延べ61名であった。	C	今年度は昨年度よりも高い目標設定であったため、受験者数、合格者数共に目標値に届かなかった。来年度は検定対策授業を盛り込みつつ、クラス全体での受験日を設定するなど、受験者、合格者共に増加できるように取り組んでいきたい。
		資格取得のための学習を提供する。	各種検定合格者延べ61名	合格者数延べ39名であった。		
4	昨年度はすべての項目において高い水準となり、目標を達成することができた。進路指導部による定期的な進路研修会により、教員も高い意識のもと、進路指導にあたることができた。来年度も早稲田予備校とWISH個別指導教室との協力をより深め、marchクラス以上の現役合格者を更に増やしていきたい。	卒業率を97%以上とする。	卒業率97%以上	卒業率100%であった。	B	今年度も進路指導部による定期的な進路研修会により、教員も高い意識のもと、進路指導にあたることができた。marchクラス以上の現役合格者のみ目標達成ができなかったため、習熟度別授業の展開や早稲田予備校とWISH個別指導教室との協力をより深め、marchクラス以上の現役合格者を更に増やしていきたい。
		個々に応じたきめ細かな進路指導を行う。	進路決定率80%以上	進路決定率は84%であった。		
		早稲田予備校との連携を図る。	marchクラス以上現役合格延べ2名以上	marchクラス以上現役合格延べ0名であった。		
5	昨年度も全国大会に出場し、入賞をする部活が2部あったことは非常に喜ばしい。その他部活動、同好会の参加者数は大幅に増加しており、すべての項目で目標を達成することができた。今年度も新入生への積極的な参加を促しつつ、満足度を高められるような活動を目指していきたい。	部活動の活性化に努め、生徒に充実感、達成感を持たせる。	全国大会での入賞1部以上	全国大会での入賞は0部であった。	B	今年度は全国大会へ出場した部活動は複数出ていたが、全国大会入賞は達成できなかった。その他部活動、同好会の参加者数は目標値を大幅にクリアしており、目標を達成することができた。来年度も新入生歓迎会等で積極的な参加を促し、日々の活動の満足度を高めつつ、全国大会入賞を目指していきたい。
		部活動を通し、教職員と生徒及び生徒相互の人間関係を深める。	学校評価アンケートで45%以上の同意	学校評価アンケートで47%の同意であった。		
		部活動、同好会の加入者延べ数を53名とする。		加入者延べ136名であった。		
6	昨年度は学則の収容定員増と南浦和キャンパスの開設があり、より一層の生徒募集への取り組みが必要な年度となった。定期的な生徒募集会議の実施や他キャンパスの学校訪問の助勤など、一丸となって取り組んだ結果が現れているように感じる。SNSの広報についても全校舎意識をもって取り組んだ結果であると感じる。今後も引き続き目標を達成できるよう取り組んでいきたい。	全教職員が協力して、地域の中学校・高等学校の教職員との連携の強化を図る	訪問担当校（中高）を年2回以上すること	訪問担当校（中高）を年2回以上実施した。	A	今年度は所沢第二キャンパスの開設や川越キャンパスの増床があり、より多くの生徒を受け入れる環境が整った。定期的な生徒募集会議の実施や学校訪問、SNSによる広報など、一丸となった募集活動ができている。出願許可書の発行数に関しては私立高校無償化の影響があり、目標枚数に達することができなかった。来年度に向けては、既に中学2年生に向けての広報を始めている。令和8年4月には熊谷学習センターが開設する予定であり、北部地域にも積極的に広報活動を行っていきたい。
		本校（通信制課程）理解促進のための中学校・高等学校等訪問の強化、訪問中学約150校とする。	訪問中学約150校とする。	訪問中学は125校であった。		
		学校行事・フェア・キャンパス行事等、様々な機会を通じて入学者が来校する機会を多く取り入れ、新入出願許可書の発行を60枚以上を下限とし、130枚以上とする。また、2025年8月末までに75枚以上とする。	新入出願許可書発行数130枚以上（2025年8月末までに75枚以上）	新入出願許可書発行数は2025年8月末時点で52枚、3月17日時点で111枚であった。		
		わせがく夢育生158名。	在籍生徒数158名	在籍生徒数は196名であった。		
7	地域の教育力を生かした活動や地域の特色を学ぶ学習に力を入れて取り組んだ結果、目標を達成することができている。新規開設の南浦和キャンパスも地域の教育力を生かした活動を実践し、全ての校舎が地域に根ざした教育を行うことができるよう、努めていきたい。	HP・SNSの充実を図る。各校舎のHP・SNSの更新を週1回以上とする。	各校舎のHP・SNSの更新を週1回以上	HP・SNSの更新を週1回以上行った。	A	地域の教育力を生かした活動や地域の特色を学ぶ学習に力を入れて取り組んだ結果、目標を達成することができている。来年度は5周年を迎えるため、「地域と共に」のスローガンのもと、地域の教育力を生かした活動をより多く取り入れていきたい。
		地域の方からゲストティーチャーを招き、地域の特色を学ぶ学習活動・協働作業の充実を図る。	地域の方々との学習活動・協働作業を年間2回以上	地域の方々との学習活動・協働作業を年間5回行った		
		学校行事や地域イベント等への相互参加を通じ、地域理解や交流を深める。	地域イベント参加等の地域交流を年間2回以上	地域イベント参加等の地域交流を年間6回行った		

学 校 関 係 者 評 価
実 施 日 令和8年3月17日
学校関係者からの意見・要望・評価等
皆勤達成や長欠率の減少は評価できる。中学時よりスマホ依存改善を指導しているが、進学後の停滞は懸念される。一方で、中学時長欠生徒が生き生きと登校する姿には希望を感じる。中学での指導を継続しつつ、高校でも動機付けや迅速な保護者連携など、粘り強い個別対応を期待する。
さまざまな困難を抱える生徒への丁寧な支援を評価する。拠点ごと規模が異なるため、一律の目標設定では現場の実情とズレが生じる懸念がある。次年度は、各キャンパスの歩みに合わせた柔軟な目標設定への見直しを期待したい。
目標未達だが情報スキルの習得は自立に不可欠な取り組みである。中学校でも学習意欲が低い生徒に対し、シール等を用いた成功体験の創出に注力している。検定取得を通じて自信を回復させる指導を期待する。
卒業率100%達成および難関私大への合格実績を高く評価する。早稲田予備校との連携による個別指導や学び直し支援は、不登校経験者にとって非常に有効な制度であり、今後も活用を推進すべきである。
生徒の満足度向上のため、全国大会入賞を目指すだけでなく、日々の居場所としての部活動活性化を期待する。高体連加盟など、通信制の枠を超えた活動の広がりを支持する。全国大会入賞を目指すだけでなく、多様な生徒が「登校したくなる」居場所としての部活動活性化に注力されたい。
少子化の中で各拠点を拡充し、在籍数を大幅に伸ばした経営努力を評価する。大規模校では馴染めない生徒の受け皿として、丁寧な対面教育を維持する現在の戦略は、地域のニーズに合致している。

